

第42回
福島県児童・生徒木工工作コンクール
表彰式

開催日時 平成29年11月11日(土) 午前11時

開催場所 いわきワシントンホテル 椿山荘

福島県木材青壮年協会

式 次 第

【表 彰 式】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 来 賓 紹 介
4. 講 評
5. 表 彰
6. 祝 辞
7. 閉 会

【記 念 撮 影】

出席者名簿 (敬称略)

【ご 来 賓】

福島大学人間発達文化学類教授	新 井 浩 (あらい ひろし)
福島県農林水産部林業振興課長	鈴 木 綾 子 (すずき あやこ)
関東森林管理局磐城森林管理署長	小 林 重 善 (こばやし しげよし)
いわき市農林水産部林務課長	人 見 進 一 (ひとみ しんいち)
福島民報社いわき支社長	浅 倉 哲 也 (あさくら てつや)
福島県木材協同組合連合会専務理事	宗 形 芳 明 (むなかた よしあき)
ラジオ福島いわき支社長	渡 辺 和 之 (わたなべ かずゆき)

【主 催 者】

福島県木材青壮年協会長	高 林 大 輔 (たかばやし だいすけ)
-------------	----------------------

【受 賞 者】

福島県知事賞	第 1 部	鈴 木 眞 介 (すずき しんすけ)
”	第 2 部	桑 折 和 真 (こおり かずま)
福島県教育委員会教育長賞	第 1 部	高 木 結 衣 (たかぎ ゆい)
”	第 2 部	高 野 晃太郎 (たかの こうたろう) 欠
関東森林管理局長賞		渡 邊 聡 那 (わたなべ あきな)
いわき市長賞		神 山 明 (かみやま あきら) 欠
福島民報社長賞		本 間 結 衣 (ほんま ゆい)
福島県木材協同組合連合会会長賞		伊 藤 心 (いとう しん)
福島県林業会館理事長賞		近 藤 美 結 (こんどう みゆう)
NHK福島放送局長賞		板 倉 圭 佑 (いたくら けいすけ)
ラジオ福島社長賞		田 口 元 音 (たぐち ながと)
福島テレビ社長賞		富 岡 ゆうな (とみおか ゆうな)
福島県木材青壮年協会	第 1 部	関 根 知 風 (せきね ちかぜ)
福島県木材青壮年協会	第 2 部	荒 晴 久 (あら はるひさ)

開催の趣旨

【目的】

歴史において木材を用いた「ものづくり」は盛んに行われてきましたが、現在では、社会環境の変化から、「ものづくり」に触れる機会は減少しました。木工や工芸を通じた「ものづくり」は、我が国の技術や文化の基礎になっているだけでなく、過程において自ら考えつつ様々な障害を解決することから、創造的な思考で問題を解決できる人間を育てる事が出来ます。

子どもたちには「木材が好き」「木材と仲良くしたい」といった気持ちが醸成され、木材の良さを体感的に理解した人間が生まれ、その体験は、将来、地域の森林や木材についてアクションを起こす、何らかの思考の要因になれば幸いです。

【主催等】

- ◇ 主催 ◇ 福島県木材青壮年協会・福島民報社・福島県木材協同組合連合会
- ◇ 後援 ◇ 福島県・福島県教育委員会・関東森林管理局・いわき市・福島県林業会館・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ

【応募資格】

- (1) 福島県内の小中学校の児童・生徒であること。
- (2) 木材及び林産物を主材料として利用・加工した創作品で、作品の大きさは一辺の大きさが60cmを越えないもの。

【審査基準】

- | | 配点(100点) |
|----------------------------|----------|
| (1) 子どもの頭で考え、子どもの手で作ったもの。 | 30点 |
| (2) 木の持ち味を活かし、独創性に優れていること。 | 30点 |
| (3) 機能、デザインが優秀であること。 | 20点 |
| (4) 工作技術が優秀であること。 | 20点 |

経過説明

【審査内容】

1. 出展作品数 総数614点(24校)
うち、各校より推薦のあった66点について審査した。
2. 審査会 平成29年9月15日いわき・ら・ら・ミュウにおいて次の審査委員により「入賞者名簿」のとおり各賞が決定された。

◇審査委員長◇

福島大学人間発達文化学類教授

(敬称略)

新井 浩

◇審査委員◇

関東森林管理局磐城森林管理署長

小林 重善

県農林水産部林業振興課主任主査

遠藤啓二郎

いわき市立小名浜西小学校長

田所 正美

いわき市農林水産部林務課長

人見 進一

福島民報社いわき支社長

浅倉 哲也

福島県木材協同組合連合会専務理事

宗形 芳明

福島県木材青壮年協会会長

高林 大輔



【その他】

3. 全国コンクールへの参加

上位入賞作品については、平成30年3月開催の全国コンクールに出展し、さらに入賞した作品については、5月12日東京で開催される日本木材青壮年団体連合会全国会員大会会場において表彰される。

4. 作品の展示及び展示期間

平成29年9月16日(土)～9月17日(日)

於：いわき・ら・ら・ミュウ 2階 会議室

講 評

第42回福島県児童・生徒木工工作コンクール審査委員長
福島大学人間発達文化学類教授
新 井 浩

第42回福島県児童生徒木工工作コンクールの審査は9月15日、いわき・ら・ら・ミュウで行われました。その感想と講評をおこないます。

事前に作品のサイズ変更を聞いていましたが、会場には力のこもった力作が並べられてとてもうれしくなり、下見の段階から審査の様子が楽しく想像されました。

はじめに審査基準の確認をおこない、できるだけ子どもたちが自分の頭で考え自分の手で作った作品をしっかりと評価していく方向で、受賞作品を決めていきました。

第1部の最優秀賞に選ばれた鈴木真介すずきしんすけくんの〈ワインでかんぱい〉は、ワインのビンを丸く削りだし、保存箱もあわせて作った作品で、とても意気込みを感じる作品でした。大きさから感じる意気込みと、感想文から感じ取れたあこがれの気持ちが素直で、審査員一同で知事賞にふさわしい作品として評価しました。

第2部の最優秀賞に選ばれた桑折和真こおりかずまくんの〈神鳥と村人〉は、福島に伝わる民話を題材に、流木でつくった質感あふれる作品です。巨大な鳥が流木で作られている様子は迫力があり、周囲の情景も思いを込めて作られている様子がうかがえる見事な作品でした。

続いて優秀賞に選ばれた各作品について講評します。

高木結衣たかぎゆいさんの〈マツボックリ休けい所〉は、マツボックリを屋根に見立て、涼しげな休憩所の様子を表していました。マツボックリの屋根はもとより、芝生や柵の様子もしっかりと作られていることに驚き、また作者の豊かな想いまで感じられる作品でした。

高野晃太郎たかのこうたろうくんの〈森のスライダー〉はいわき出身らしく、地元施設の巨大遊具で遊んだ思い出をもとにした作品です。うろになった輪切り丸太に竹をつなぎ合わせる工作技術がしっかりしていて、大きなうねりとカラフルな色合いから迫力と楽しさが伝わってくる力作でした。

渡邊聡那わたなべあきなさんの〈ツリーハウス〉はしっかりとした工作技術で丁寧な仕上がりとなりました。建物の手の込んだ組み立てのほか、生き物が遊んでいる様子や質感のある手すりや屋根の様子が愛着を感じさせとても好感が持てました。

神山明かみやまあきらさんの〈森の学校〉は教室の情景を丁寧に作り込んだ作品で、机椅子、教卓やオルガンが細かく表現されていることに驚き、粘り強い取り組みとどこかに懐かしさを感じさせてくれる作品でした。小さな鳥たちもとてもがんばって作った様子が伝わります。

本間結衣ほんまゆいさんの〈トトロの森〉ではマツボックリやどんぐりでたくさんのトトロが作られて、森の豊かで美しい表情が伝わってきます。台座からはみ出るくらいの造形に、作者の想いが盛り込まれているようでした。

^{いとうしん}伊藤心くんの〈オンブバツタ〉はまず昆虫の観察がもとになっていることで、作者の表現が実感をもって迫ってきます。枝で脚を作り葉っぱで羽を作った様子や、腿に板材を選んだことがしっくりと理解でき、作者の強い意欲を感じることができました。

^{こんどうみゆう}近藤美結さんの〈幸せをよぶふくろう〉では芯のかたまりを作るたいへんさがよくわかります。立体の造形物では目に見えないところの手間が多いのですが、それをやり遂げました。表面の質感や色合いなどもよくまとめ上げた優品でした。

^{いたくらけいすけ}板倉圭佑くんの〈スピノ〉は恐竜のスピノサウルスを流木で作った味わいのある作品です。脚で立たせるのは難しかったと思いますが、全体の組み立てと流木の質感が見事で、ぜひ次もチャレンジしてもらいたいと感じさせる作品でした。

^{たくちながと}田口元音くんの〈くじゃく〉は流木のふしが鳥の顔に似ていたところから発想した作品で、柔軟な発想力だけでなく、それをもとに美しく味わいのある作品に仕上げる取り組みが素晴らしい作品でした。

^{とみおか}富岡ゆうなさんの〈まな板の上の木魚〉では貼り付けた葉っぱの色合いが美しい作品でした。板と葉っぱで生き生きとした作品が出来上がっていることに驚き、作者が一枚一枚丁寧に貼り付けた努力が実った見事な作品でした。

^{せきねちかぜ}関根知風さんの〈森のようせい〉では感想を読むと丸い体の芯材に風船を使ったようで、その発想に驚きました。森のようせいは体から樹木が茂っているよにも感じられ、イメージの豊かさがしっかりと作り込みによって生きた作品でした。

^{あらはるひさ}荒晴久くんの〈きょうりゅうの骨〉では角材できょうりゅうの骨格を作り上げた作品で、一つ一つの小さな角材をつなぎ合わせる手間がしっかりと生かされた作品になりました。感想からも作者の工夫が伝わってとても好感が持てました。

全体講評に移ります。

今年の作品からは、組み立ての良さや思いつきの良さが目立って、とても良かったと思います。

大人目線では組み立ての良さはデザインの領域にまとめられます。今まで人類史でつちかわれた比率やバランスや対比などの美しさを活用しながら、全体を総合的にまとめたり、大切な部分とそうでない部分を省略強調して分かりやすくまとめる力のことで、これらは問題解決を導く力となります。

一方で思いつきの良さはファインアートの領域にまとめられます。常識と思われていることに別の角度から光を当てて新たな発見を提案したり、無価値のものから価値あるものを提案する力のことで、これらは問題提起する力となります。

問題解決を導くデザインの力は、今日のようにいろいろな考え方が湧き起こって收拾がつかなくなりそうな世界をまとめ上げるのにとっても必要な力となります。

また問題提起するファインアートの力は、今日のように先行きを見通せない時代にイノベーションをもたらし、世界を切り開くのにとっても必要な力となります。

木工や工作の世界では、ここに現実の素材を扱うという抵抗感や肌触り感が加わって、頭の中では何でも可能な想像の世界に、その想像は実現可能性がありうるかどうかという現実世界の校正を加え得る最も大切な感覚を磨く場面を持っています。

これら問題解決する力、問題提起する力、現実世界の校正を加える力は別個に働くのではなく、木工や工作の中では渾然一体となっているため見えにくいのですが、あえて取り出すととても意味のある力として見えてきます。

人と木の関係を発展解決していくのにも同じ力が必要に思えます。

これらの力を蓄えて、人と人そして人と木のより良い関係が気づけるよう、また多くの皆さんに理解してもらえるよう、木工工作コンクールが発展して多くの子どもたちが成長していく過程を今後とも見守りたいと思います。

また来年も会いましょう。皆さんの取り組む姿勢をととても楽しみにしています。

入賞者名簿

(敬称略)

【最優秀賞】

福島県知事賞 1部

ワインでかんばい

福島県知事賞 2部

神鳥と村人

【優秀賞】

福島県教育委員会教育長賞 1部

マツボックリ休けい所

福島県教育委員会教育長賞 2部

森のスライダー

関東森林管理局長賞

ツリーハウス

いわき市長賞

森の学校

福島民報社長賞

トトロの森

福島県木材協同組合連合会長賞

オンブバッタ

福島県林業会館理事長賞

幸せをよぶふくろう

NHK福島放送局長賞

スピノ

ラジオ福島社長賞

くじゃく

福島テレビ社長賞

まな板の上の木魚

福島県木材青壮年協会会長賞 1部

森のようせい

福島県木材青壮年協会会長賞 2部

きょうりゅうの骨

【入選】

福島県木材青壮年協会会長賞

ツリーハウス

かいぞくせん

メピカリくん

サッカーパチンコ

ひみつのプロペラき

トトロのえんぴつ入れ

森のめぐみのリース

公園

城

小鳥さんのカフェ

大きなツリーハウス

森の中の陸橋

護衛艦きりしま

いわき市立赤井小学校	3年	鈴木 真 介
福島市立野田小学校	5年	桑 折 和 真
いわき市立大野第二小学校	4年	高 木 結 衣
いわき市立勿来第一小学校	6年	高 野 晃太郎
いわき市立夏井小学校	5年	渡 邊 聡 那
いわき市立泉北小学校	5年	神 山 明
いわき市立泉小学校	4年	本 間 結 衣
福島市立野田小学校	3年	伊 藤 心
いわき市立中央台東小学校	4年	近 藤 美 結
いわき市立平第五小学校	1年	板 倉 圭 佑
いわき市立小名浜第二小学校	2年	田 口 元 音
いわき市立平第六小学校	4年	富 岡 ゆうな
いわき市立中央台東小学校	4年	関 根 知 風
いわき市立植田小学校	5年	荒 晴 久
いわき市立勿来第二小学校	1年	坂 本 圭
いわき市立入遠野小学校	2年	鈴木 叶 琉
いわき市立好間第一小学校	2年	岩 崎 翔
いわき市立高野小学校	2年	大和田 心 温
いわき市立御厩小学校	2年	志 賀 颯 太
いわき市立大野第一小学校	2年	富 岡 美 海
いわき市立平第五小学校	4年	鈴 木 咲 桜
いわき市立郷ヶ丘小学校	4年	中 田 琴 人
いわき市立磐崎小学校	4年	川 上 諒 人
いわき市立小名浜西小学校	4年	遠 藤 かりん
いわき市立上遠野小学校	5年	加 藤 篤 志
いわき市立小名浜第一小学校	5年	長谷川 麻 央
いわき市立平第四小学校	5年	佐 藤 龍 之介

☆☆☆第42回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞作品☆☆☆

(敬称略)

福島県知事賞 1部



「ワインでかんぱい」
いわき市立赤井小学校
3年 鈴木 眞介

福島県知事賞 2部



「神鳥と村人」
福島市立野田小学校
5年 桑折 和真

福島県教育委員会教育長賞 1部



「マツボックリ休けい所」
いわき市立大野第二小学校
4年 高木 結衣

福島県教育委員会教育長 2部



「森のスライダー」
いわき市立勿来第一小学校
6年 高野 晃太郎

関東森林管理局長賞



「ツリーハウス」
いわき市立夏井小学校
5年 渡邊 聡那

いわき市長賞



「森の学校」
いわき市立泉北小学校
5年 神山 明

福島民報社長賞



「トトロの森」
いわき市立泉小学校
4年 本間 結衣

福島県木連会長賞



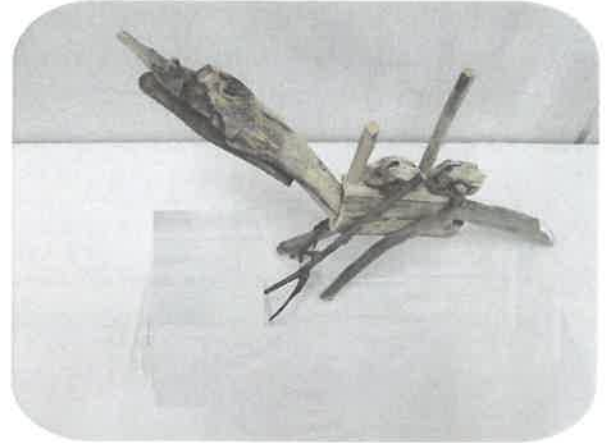
「オンブバッタ」
福島市立野田小学校
3年 伊藤 心

福島県林業会館理事長賞



「幸せをよぶふくろう」
いわき市立中央台東小学校
4年 近藤 美結

NHK福島放送局長賞



「スピノ」
いわき市立平第五小学校
1年 板倉 圭佑

ラジオ福島社長賞



「くじゃく」
いわき市立小名浜第二小学校
2年 田口 元音

福島テレビ社長賞



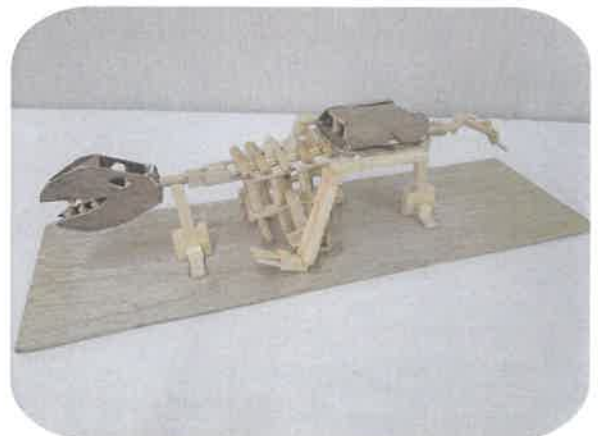
「まな板の上の木魚」
いわき市立平第六小学校
4年 富岡 ゆうな

福島県木材青壮年協会長賞 1部



「森のようせい」
いわき市立中央台東小学校
4年 関根 知風

福島県木材青壮年協会長賞 2部



「きょうりゅうの骨」
いわき市立植田小学校
5年 荒 晴久